

西来寺報

二〇一七年 夏
第二十六号

法事をつとめる

先日、四月十四日、無事に前住職の一周忌と前々住職の五十回忌をお勤めいたしました。御多忙中にもかかわらずご参列くださいました方におかれましては、誠にありがとうございました。

さて、皆さんは法事をつとめる意味についてどのようにお考えでしょうか。「法事とは、お坊さんにお経をあげてもらい亡き人が迷わないように供養をしてもらう行事でしょう」とお考えの方も多いのではないのでしょうか。

しかし、亡くなった方はどこでどのように迷っているのでしょうか。また、お経をあげるといことはどんな意味があるのでしょうか。

法事とは、なくなつた方のご命日をご縁として生きている私たちが仏法にふれる仕事です。仏法

にふれる仕事で法事といえます。善導大師は「経教はこれを喩うるに鏡の如し」とおっしゃっています。つまり、お経や様々のお聖教は私の姿を映し出す鏡のようだという事でしょう。

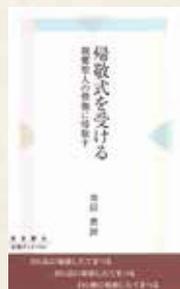
お経にはかけがえのない「いのち」を生きていながら、その尊さや重さを見失い、目先の損得に振り回され、無意識に都合の悪いことは排し、思い通りにならなければ自分自身さえも見捨ててしまう、そのような迷いの中にいる私たちの姿が説かれています。そのような私たちのあり方を明らかにしていただくということがお経をいただくということでしょう。迷っているのは亡き人ではありませんね。

年忌法要は数年に一度ですが、法事の原点は毎日お内仏のご本尊の前で静かに「南無阿弥陀仏」と念仏申すことです。これが毎日していただける法事です。

帰敬式の冊子差し上げます

御希望の方に、本山発行の冊子『帰敬式を受ける』をお送り致します。帰敬式(ききょうしき)とは、自分中心の生き方を改めて、仏さまの教えを中心とする生活を始める節目になる儀式です。

「帰敬式ってどんなものかな?」「ちよつと読むだけ読んでみたい」という方、お電話かお葉書で帰敬式の冊子希望とお伝えください。



『帰敬式を受ける - 親鸞聖人の僧伽に帰敬す』
著者：池田勇諦
新書判 52ページ

お知らせ

！ 今年の報恩講は

10月29日(日曜日)

例年、10月28日に行っている報恩講ですが、本年は都合により、10月29日(日曜日)に行います。詳細は次号の西来寺報でお伝えいたします。

2017年のお盆日程

新盆 7月8日

新盆経。当西来寺で過去1年間に亡くなられた方の家族を集めて法要をします。(該当の方にはご案内差し上げています)

お盆 7月13日～7月16日
東京地方、横須賀市中心部。

旧盆 8月13日～8月16日
月遅れのお盆。葉山、鎌倉方面 全国的にはこちらの方が多い。

※本堂の受付は9時～17時まで

住職が足を怪我しているため、どのくらいの御門徒さんのお宅に向うことができるか分からず、キチンとしたことがご案内できず、申し訳ありません。今年のお盆では、お伺い出来ないお宅もあるかと思えますが、何卒ご了承のほどお願い申し上げます。また、来て欲しい日にちなどございましたら、事前にご連絡いただければ、できる限りご要望のある日にお伺い致します。春のお彼岸で伺えなかった御門徒さんは、優先的に伺わせて頂きます。

これまでなかなか伺えていない地区の御門徒さんで、来て欲しいという方がいらっしやいましたら、是非ご連絡ください。市内で西来寺から少し離れている方や県外の方も、ご連絡いただければ、日程をご相談させて頂いた上で、坊守が伺わせて頂きます。ちなみに昨年は、仙台と名古屋の門徒さんのお宅に伺わせていただきました。

知っていますか？ 法事と御供物

御門徒さんから法事の連絡をいただいた時に「法事の御供物は何を持って行けばいいですか？」とよく質問されます。お寺によっては御供物のリストを渡されることもあるのですが、西来寺では「亡くなった方が好きだったものを持ってきて下さい」とお答えしています。なので、庭で採れた蜜柑、亡き人が育てた花々、淹れ立ての珈琲、焼きたてのパンが御供物として上がることもあります。

皆さん、法事のスタートはいつからだと思いますか？ 法事の日の朝でしょうか？ 庫裡にご親族全員が集まったときでしょうか？ 本堂でお坊さんが読経を始めたときでしょうか？

私たち西来寺はこう考えます。法事は皆さんが「あつ、そうだ、〇〇さんの法事をしなくちゃ！」と思いついたその時にスタートして



るのだと。そして「あの人は、よくこれを楽しみにしていたな」「これが好きだったな、これが美味しいっていつていたな」「最後にこれが食べたいって言うていたな」と、思い出すること自体が一番大切なご供養だと考えています。

なかには、法事にあたるその人があまりいい人だったと思えないときがあるかもしれません。その時は「でも身内だからな」と思ってお下さい。何せ反面教師という言葉もあるくらいですから。

心から大切な人を失った場合はそうはいきません。心が引きちぎられる思いでしょう。かけがえのないあの人がいなくなった。もう姿が見えない、声も聞こえなくなってしまう……。では、私たちはその人にもはや何も出来ないのでしょうか。

残された私たちに、少しでも出来ることがあります。その人を丁寧に思い出して、その人が今生きていたらしてあげたいことをする事です。「この花を見せてあげたい」「こんなことがあったんだよと報告したい」といった思いです。瀬戸内寂聴先生はこれを「魂が寄り添っていく」と表現しているらしいです。生きている間は照れくさ



4月25日撮影 多目的室から見える中庭のツツジ

くて、また衝突していて、なかなか言えないこともあります。そういうことを心の奥底から見つめるのです。とても辛いことかもしれませんが、それはかえって生前には難しいことかもしれません。

亡き人に語りかけながら御供物を選んで、読経を聞きながら「ひと時でも一緒に生きてくれて有り難う」と心を込めて手を合わせる。皆様のご法事が、そのような法事であって欲しいと日頃から願っております。そして、そのような法事が、人がもつ温かな心を継承していくものだと思います。

御供物を選ぶことは簡単そうですが、選ぶこと選ぶ時間が、実はとても大切なのだと思います。

募集 ボランティア募集

毎年10月に行われる報恩講のボランティアスタッフを募集します。報恩講は一年の中で最も大きな法要で、門徒さん以外にも多くの方に西来寺に来ていただいています。

そこで、報恩講の準備と当日の運営をお手伝いしてくださる方を募集します。無理ない範囲で手伝っていただけることをお願いしますので、お気軽にご参加いただければと思います。ボランティアに参加すると、講演後に講師の先生とお食事ができるかもしれませんよ！

〈主な内容〉

本堂の清掃及び飾り付け等準備
報恩講当日の運営

〈予定〉

- 10月上旬 スタッフ打ち合わせ
- 10月25日頃 本堂など準備
- 10月29日 報恩講当日

日程についてはおおよその予定です。九月中旬頃に、ご応募いただいた方にお葉書でご連絡致します。

〈応募方法〉参加していただける方は、下記宛先にお名前と連絡先を記入してご応募下さい

〈宛先〉〒238-0051 神奈川県横須賀市不入斗町3-38 西来寺 報恩講ボランティア募集係まで